

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

池高の伝統である「自主・自律」が実践でき、グローバル社会の変化に主体的に対応して、納得して自らの人生を形成できる活力溢れる人材を育成する

1. 変化する社会を自分の視点で捉え直し、自分らしく人の役に立つ意識を向上し、言葉や表情で様々な人とコミュニケーションできる能力を育成する
2. 自己実現を図る進路目標の設定と希望進路の実現必達を支援する
3. 学校行事や部活動等の幅広い体験を通して、知・徳・体の調和のとれた人格を陶冶する

2 中期的目標

1 「授業で勝負」の理念で、「21世紀型学力」の育成に挑戦
授業力向上の取組みを学校組織として継続し、教科指導研究委員会を中心に、教科指導の質的進化を図る

- (1) 1人1台端末を含む、ICTの効果的な活用を進めるとともに、教員が互いに学び合い、全教科で「わかる喜びが散りばめられた授業」を展開
- (2) 池高型アクティブ・ラーニングを継承し、新学習指導要領に則した「主体的、対話的で深い学び」につながる「本時の目標と振り返りのある授業」を展開
- (3) 知識・技能定着に加え、発展的学力（思考力・判断力・表現力）や「学び続ける力」の育成

ア 自学自習力育成のため、教育産業の教材活用も含め、教科としての方策を定めて、自学自習時間の向上を図る

イ 補習・講習等の充実、着実な知識・技能の習得

ウ 朝読書、総合的な探究の時間・HR等の活用による言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成

* 学校教育自己診断において、授業の理解度 [項目：授業はよく理解できる] の肯定率 75%を継続する
(R1年度：76% / R2年度：79% / R3年度 84%)

* 授業評価アンケートの自学自習項目の肯定率：R6年度までに3.1ポイント（満点4.0）に近づける
(R1年度：2.83 / R2年度：2.91 / R3年度 3.01)

2 「志」の育成と生徒全員の進路保障実現
学ぶための「志」を育成し、目標に対して安易な妥協をさせない進路指導を実施する

- (1) 進路情報の基礎となる全国模試の全学年・全員受験推進とその結果分析を活かした教科指導法の検討
- (2) 3年間の進路指導計画充実と、新入試等のタイムリーな進路指導情報提供
- (3) キャリア・ガイダンス充実、高大連携企画（大教大府立高校教職コンソーシアム）や社会人講話の推進
- (4) 教職員の働き方改革のため、分掌業務を「全教員で対応する」ことを基本として相互補助により業務軽減を図り、教職員自らがいきいきと働く姿勢を生徒が感じ、「志」のある進路指導とともに活力溢れる人材育成を行う

* 3年生現役国公立大学合格者が、前年度を維持或いは上昇することを目標とする
(R1年度合格者：35% / R2年度合格者：31% / R3年度：46%)

3 総合的な「人間力」育成

- (1) 3年間の教育プログラムに基づく生徒育成
- (2) 学習と行事・部活動を両立させる生徒育成
- (3) 朝読書の活性化と工夫による読書習慣定着と個々の読書量の増加、図書室利用の促進
- (4) ヤングケアラーを含む生徒の課題を踏まえた教育相談体制の充実
- (5) 国際理解教育推進、国際社会を生きる実践的英語力向上

* 学校教育自己診断「学習と部活動の両立」の肯定率の上昇を目標とし、自己肯定感の上昇につなげる
(R1年度：61% / R2年度：61% / R3年度 65%)

4 本校の安全安心基盤、広報体制充実

- (1) 本校独自の災害対策マニュアルの定期的な見直しと新たな取組みの導入
- (2) 老朽化した学校施設・設備の改善
- (3) 中学生に向けた広報活動の改善と推進
- (4) 保護者に向けた情報提供の改善と推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
一 二十一世紀型学力育成に挑戦	(1) 1人1台端末を含む、ICT活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開	(1) 1人1台端末を含む、ICT活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開 ① ICT利用教員数増加、そのためのICT環境の整備改善 教材・情報共有化により教員の業務効率化を図る ② 教科毎及び学校全体の公開授業実施 ③ 教員間の互見授業推進 ④ 授業評価に課題がある教員は授業改善シート等を活用し改善注力 授業全般に生徒理解度を上げる	① ICT活用教員割合：環境改善に努めて前年度より活用教員割合を上昇 [92 %] ② 公開授業週間を年間2回以上設定 ③ 授業互見回数一人平均2回以上 ④ 授業評価「知識・技能が身についた」3p以上の教員比率の上昇 [89 %] ・学校教育自己診断（生徒）「授業はよく理解できる」肯定率の維持か上昇 [84 %] 「教え方に工夫をしている先生が多い」肯定率の維持か上昇 [83 %]	
	(2) 池高型アクティブ・ラーニングの継承	(2) アクティブ・ラーニングの継承 ① 教科指導研究委員会を中心とした授業改善の取組み推進(本時の目標と振り返りの実践と定着及び校内研修等の活性化) ② ディベート取組み推進 ③ 生徒の授業参画意識を促進する指導の工夫・改善	① 授業アンケートの「興味・関心」「理解度」前年度ポイントを上昇 [各 3.16 / 3.19] ② ディベート取組みの継続 ③ 学校教育自己診断（生徒）の「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」の肯定率が前年度より上昇する [74 %]	
	(3) 知識・技能の定着、発展的学力や学び続ける力の育成 ア 自学自習力育成と自習環境の整備 イ 土曜学習日や課外補習等の実践 ウ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成	(3) 知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成 ア 自学自習力育成と自習環境の整備 ① 二兎追え週間の定着、池高ラボの整備推進・活用率の維持 ② 新入生対象（学習方法）オリエンテーション実施。教科科目ごとに自学自習の方法を指導ならびに予習意識の向上 ③ 自学自習企画の提供及び実施 イ 課外補習の実践 ① 課外講習・補習の内容精選、年間を通じた計画的補習の実施 小テストについては授業内で行うことを基本とし、やむを得ずSHR内で放課後一斉小テストを行う場合は、計画的に周知したうえで実施し、全教員の理解協力のもと実施する ウ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① スピーチコンテスト、ディベート、エッセイ作成等、生徒自身によるアウトプットの機会を捻出	ア 自学自習力育成と自習環境の整備 ① 授業アンケート：自学自習P上昇 [3.01 p] 池高ラボ稼働率ほぼ100%の維持 ② 自主学习1日2時間以上の生徒数比率46%以上 [43 %] ③ 「英語力発信力養成講座」（3日間集中講座）の実施 イ 課外補習の実践 ① 授業外での取組み実態を把握し、教科指導研究委員会を中心に自学自習を進める なお、平日の講習計画などは各教科及び各学年で調整して実施すること ウ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① 生徒による自己表現の取組機会を年間2回以上設定する	
二 「志」の育成と全員の希望進路実現	(1) 進路指導充実	(1) 進路指導充実 ① タイムリーな進路情報提供 模試後の分析会を活用し、各教科で本校生徒の不得意分野を共有する ② 3年生向け特別講習の充実等を背景とする進路実績向上	① 学校教育自己診断（生徒）「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率：85%以上 [87%] ② 現役国公立合格者：前年度比率を維持或いは上昇させる [46%]	
	(2) キャリアガイダンス充実	(2) キャリアガイダンス充実 ① 大学見学会、学部学科説明会、教育実習生懇談会等実施 ② 大教大府立高校教職コンソーシアム活用	① 社会人講話の充実 ② キャンパスガイドの参加者数 [0名/昨年度：0名][今年度もコロナのため中止] 「教師にまっすぐ」への生徒参加 [6 名]	
	(3) 全国模試の全学年・全員受験推進	(3) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 学力指標としての全国模試等の、全学年全員受験を推進する	①各学年で実施予定の全国模試受験において生徒の受験率100%を継続	

目 総合的な「人間力」育成	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム継続実施	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム ① 3年間の時期に応じた育成ポイントを設定、特に自主自律を推進する施策を各分掌・学年で企画する ② 3年間のプログラムの中で生活指導の重点ポイント(登校指導期間、挨拶励行指導時期、遅刻防止週間等)を設定、全教員で協力して生活習慣や規律規範を確立させる ③ 3年間のプログラムの中で、人権意識の向上とバランスのとれた人権感覚を持つ社会人を育む機会を与えていく	①コロナで途絶えた、池高伝統の体育祭や文化祭などの「自主・自律」の活動を復活させ、生徒育成を図る機会を設定する ②学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率の維持か上昇 [77 %] 学校教育自己診断(教員)「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」: 肯定率の上昇 [85 %] ③学校教育自己診断(生徒)「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率の維持 [83 %]	
	(2) 学習と部活動・行事の両立	(2) 学習と部活動・行事の両立 ① 教科指導研究会を中心に学習・部活動両立に向けた取組み推進 ② 部活動のガイドラインに沿った部活動の計画を立てて効率の良い練習を行い、生徒の活躍を推奨する	①学校教育自己診断(生徒)「学習と部活動の両立」の肯定率の上昇 [65 %] ②部活動ガイドラインの定着に努め、生徒自身の部活動に対する考え方、取組み方の変化を図るミーティングを各部で実施し効率の良い部活動をめざす	
	(3) 読書習慣確立	(3) 読書習慣確立 ① 朝読書の活性化と工夫による読書習慣の定着、生徒の読書意欲の高揚 ② 図書室の利用の推進と施設見直し	① 月間平均2冊以上読書する生徒比率の回復 [22 % / 一昨年度 24%] ② 図書室での貸出冊数前年比 10%以上増加	
	(4) 教育相談体制充実	(4) 教育相談体制充実 ① エアコンを設置して相談しやすい環境になった教育相談室を活用し、教育相談体制やスクール・カウンセラー相談日の周知徹底 教育相談委員会を年間 10 回実施	①学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」75%以上の維持 [80 %]	
	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ① 海外での語学研修実施が困難な中、エンパワメントプログラム、英語発信力養成講座を実施する ② 授業は勿論、外国人講師との英会話等、英語4技能の能力向上に努める ③ 国際理解教育を推進する取組みにおいて、異文化理解を含め、バランスのとれた人権感覚を育む	①・エンパワメントプログラム参加者の増加 [コロナで中止] ・英語発信力養成講座参加者の維持 [第1回: 25名] ・各取組実施後の生徒満足度(肯定率): 90%以上維持 [R3はコロナのため実施できず] ②2年生が受験する英検で、2級レベル以上 140 人を目標とする ③各取組実施後に振り返りを必ず行い、バランスのとれた人権感覚の醸成を図るように努める	
目 学校安全基盤・広報体制の充実	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底 ① 自然災害経験を活かすと同時に感染症予防の観点も含めたマニュアルの見直しを行う	① 避難訓練実施要項の更新、生徒自治会やLHR等を活用して災害対策に関する検討の機会を設定する	
	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善 ① 迅速な施設・設備の改善を実践する ② 古いと汚いの違いを意識して清掃活動や日々の整理整頓に努める校内組織の構築	①事務室との連携強化で対応 ②生徒や保護者から不満が多い老朽化への改善要望を継続し、学校としてできることから実践し形を残すため、リサイクルでもリメイクでもなく少しでも新しいものを提供する	
	(3) 中学生にむけた広報活動の改善と推進	(3) 中学生向け広報活動の改善と推進 ①・オープンスクールや学校見学会に生徒自治会関与を増やし、本校生徒による中学生向けPRを推進する ・よりわかり易く、見やすい資料への改善を行う ② 学校ホームページの適時更新と学校掲示板の活用	①オープンスクールと学校見学会来場者数の維持或いは更新 [1370 名] ②本校生徒が広報活動に一層参加できる企画立案・推進 ・自治会による学校掲示板を活用した季節感が溢れかつ本校らしさをアピールする情報発信を定期的に行う	
	(4) 保護者に向けた情報提供の改善と推進	(4) 保護者に向けた情報提供の改善と推進 ① これまでのメール配信について適宜検証しながらより良いシステムに改善していく	① メール配信登録者数の増加 [100%]	